

E.T.C. 「教育をタイムリーにチェンジする」

長野県総合教育センター通信



しののめ

2018/06/11
(平成30年06月号)
第110号

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail : kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目次

希望研修の追加募集があります・・・・・・・・・・・・・・・・	1
学びの広場をご活用ください！・・・・・・・・・・・・・・・・	2
単元をつくろう②（理科編）・・・・・・・・・・・・・・・・	4
義初研「初任研スタート研修」/高初研「教科指導基礎研修Ⅰ」・・・・・・・・	5

希望研修の追加募集があります

お申込み手順の概要

*必ず追加募集申込システムをお使いください。

募集講座を確認する

•決定通知に同封した、追加募集講座一覧をご覧ください。（センターホームページからもダウンロードできます。）

受講希望講座を選ぶ

•受講希望講座を選んでいただき、申込希望の旨、教頭先生にお伝えください。

センターに申し込む

•追加募集申込システムと追加募集申込の手引をダウンロード*いただき、CSVファイルにてお申し込みください。

5月末に決定通知を送信させていただきました。多数のお申込みをいただき、ありがとうございました。

9月末まで追加募集の受付をします。ぜひお申し込みください。



長野県総合教育センター
〒399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4
TEL 0263-53-8802 FAX 0263-51-1290 E-mail kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

①センターHPトップページの希望研修をクリック

磨かん共に

指定研修 希望研修

希望研修

②ファイルをダウンロードして申込データ作成

- 2018 希望研修 追加募集講座一覧表 (pdf) >
- 2018 追加募集申込システム (zip) >
- 2018 追加募集申込の手引 (pdf) >

・先端技術研修 >

これらのファイルです。

「学びの広場」をご活用ください！

学力向上に向けた学校づくりに 過去のP調査・C調査を活用してみませんか 過去8年間の問題がダウンロードできます

「学力向上」に向けた学校での取組に、過去のP調査C調査（以下PC調査）を活用してみませんか。本年度から、県下一斉のPC調査の実施はありませんが、学校独自で過去のPC調査の問題を活用して、授業改善に役立てることができます。総合教育センターのHPから過去の問題と解答等がダウンロードできます。ぜひご活用ください。

長野県総合教育センター

検索

P調査・C調査問題

トップページ>教育情報>学びの広場>P調査・C調査問題

H22～H29の問題と調査結果を掲載します。
1教科20～30分程度で解答できる問題です。
各年度の全県の平均点と比較することも可能です。

平成29年度			
	小学校 5 年生 (C調査は5・6年生)	中学校 1・2 年生	
P調査問題	問題・解答例 ダウンロード	分析シートダウンロード	問題・解答例 ダウンロード
C調査問題	問題・解答例 ダウンロード	分析シートダウンロード	問題・解答例 ダウンロード

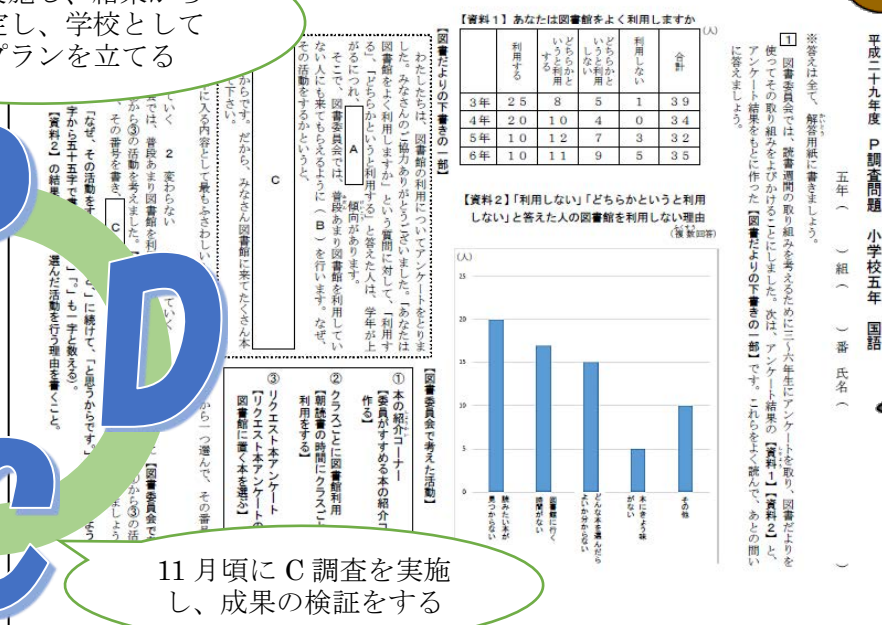
平成28年度			
	小学校 5 年生 (C調査は5・6年生)	中学校 1・2 年生	
P調査問題	問題・解答例 ダウンロード	分析シートダウンロード	問題・解答例 ダウンロード
C調査問題	問題・解答例 ダウンロード	分析シートダウンロード	問題・解答例 ダウンロード



P調査を実施し、結果から
課題を特定し、学校としての
改善プランを立てる



11月頃にC調査を実施
し、成果の検証をする



「レビュー問題 小1 算数～中3 数学」

小単元ごとの見とどけや家庭学習での活用を！



算数では、学習内容の定着を図るために副教材を使っています。いろいろな問題を子どもたちに解いて欲しいけど、市販の問題集をコピーして子どもに配るわけにはいかないし…。どこかに無料で使える問題がないかなあ？

私、知ってる！ 総合教育センターのWeb ページにある「レビュー問題」！
小1 から中3 までのすべての学年で、算数の教科書の小単元に沿って学習内容の定着を確認できる問題があるよ。長野県内の算数数学の先生方が協力して作った問題なんだって。当然、無料でダウンロードできるの。最近、小学校5・6年と中学校1年の解答ページに、解説もついたんだよ。



そうなんだ。単元のまとめの時間や家庭学習で使えそうだね。さっそく、総合教育センターのWeb ページを開いてみるね。

ダウンロードのやり方は…

これはいいなあ。さっそく、明日から使ってみます。他の先生にも紹介したいな。

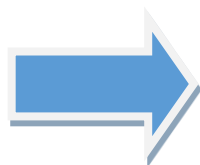
総合教育センター トップページ

■教育情報 ◆学びの広場

◆レビュー問題

小単元	項目
① ひょう・グラフと 時計	1・あそびしらべ 2・1日の生活
② たし算と ひき算	1・たし算 2・ひき算
③ 長さ	1・長さ
④ たし算と ひき算の ひっ算(1)	1・たし算 2・ひき算 3・かくれた数はいくつ 4・どんな計算になるのかな
⑤ 1000までの 数	1・100をこえた数 2・たし算とひき算 3・買えますか？買えませんか？ 4・よみとる算数
⑥ かさ	1・かさ 2・たし算 3・ひき算
⑦ たし算と ひき算の ひっ算(2)	1・3けたの数のひっ算 2・文と図と式 3・ふえたりへたり
⑧ 計算の じゆんじよ	1・計算の じゆんじよ
⑨ かけ算(1)	1・かけ算のしき 2・かけ算の九九
⑩ かけ算(2)	1・九九づくり 2・かけ算をつかったもんだい 3・さがしてみよう 4・よみとる算数
⑪ 三角形と四角形	1・三角形と四角形 2・長方形と正方形
⑫ 九九の きまり	1・九九のひょうときまり 2・九九を広げて
⑬ 100cmを こえる 長さ	1・100cmを こえる 長さ 2・ちがいをみて 3・どんな計算になるのかな
⑭ 10000までの 数	1・10000までの 数
⑮ はこの 形	1・はこの形 2・はこづくり 3・何番目
⑯ 分数	1・分数

項をクリックすると…



レビュー問題

中学校1年 数学

(月 日)

【5】 - 2 - 3 円とおうぎ形の計量

氏 名 _____ 解 答 _____

① 次の図のような中心角 120° のおうぎ形があります。このおうぎ形の面積は、同じ半径の円の面積の何倍ですか。

② 次の各問に答えなさい。

(1) 半径 9 cm 、中心角 40° のおうぎ形について、弧の長さ 2π (cm) について、弧の長さと面積を求めなさい。

(1)	弧の長さ	2π	(cm)
	面積	9π	(cm^2)

(2) 半径 5 cm 、弧の長さ $4\pi\text{ cm}$ のおうぎ形について、中心角の大きさと面積を求めなさい。

(2)	中心角	144	($^\circ$)
	面積	10π	(cm^2)

③ 直線上に2点A、Bを $AB=10\text{ cm}$ とする。AB上を動く点Cをとり、線分AC、CBを直径とする2つの円の円周の長さの和について、AC=a として、次のように計算した。

線分ACの長さは、a cmだから、線分CBの長さは、 $(10-a)\text{ cm}$ と表すことができるので、2つの円の円周の長さの和を計算すると、 $a\pi + (10-a)\pi = a\pi + 10\pi - a\pi = 10\pi$

この計算では、ACの長さをa cmとしたのに、答えの「 $10\pi\text{ cm}$ 」に文字aがありません。このことから、2つの円の円周の長さについてどんなことが分かりますか、下の _____ の中に書きなさい。

(例1) 2つの円の円周の長さの和は、線分ACの長さa cmに関係せず、いつでも $10\pi\text{ cm}$ になる。
(例2) 2つの円の円周の長さの和は、点Cの位置に関係せず、いつでも $10\pi\text{ cm}$ になる。

- 各学年ですべての小単元を網羅し、問題が作成されています。すべての問題に解答シートがついています。
- 用語や計算等の知識・技能だけでなく、判断したり説明したりする問題を多く盛り込んだ構成になっています。

単元をつくろう②

理科 編



トモニ先生

理科の授業では、やっぱり実験や観察を大切にしたいのだけど、どのように単元を構想したらいいのかな？

単元のはじめに、既習の内容や生活経験を基に結果を予想して追究できるような学習活動を位置付けてから実験や観察に入ることが大切です。このことが、単元のまとまりとして、追究の見通しをもつことにつながります。

例えば「水のあたたまり方」（小4）の小単元では・・・



つなぐ先生

【願いをもつ】

既習の内容や生活経験を基に予想する場を位置付けることにより、「こうしたらどうなるのかな」「もっとこうしたいたい」などといった、子どもの疑問や願いが生まれます。

【追究する】

みそ粒の動きに着目し、水の温まり方を図に表すことで、より科学的な概念を形成することにつながります。

【振り返る】

みそ粒が動くのは水が動くからだという関係性から、うどんやそばをゆでるときに鍋の中では真ん中に向かって動くことなどと結び付け、身近な自然の事物・現象を説明する場面を位置付けましょう。



単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】小学校第4学年

【単元名】もののあたたまり方（8時間扱い）

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力、判断力、表現力等〕
2 (2) ア (イ) 金属は熱せられた部分から順に温まるが、水や空気は熱せられた部分が移動して全体が温まること。	2 (2) イ 金属、水及び空気の性質について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、金属、水及び空気の温度を変化させたときの体積や状態の変化、熱の伝わり方について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。

【主な学習活動と留意点】

前の内容からのつながり：「金属のあたたまり方」 金属の温まり方を調べる。（2）
・ロウのとけ方等に着目して、それと温度の変化とを関係付けて、金属は順に温まることを見いだす。

働かせる見方・考え方：加熱した水の温かさや、みそ粒の動き等に着目して、それらと温度の変化とを関係付けること。

断	学習活動（時間）	留意点
見 通 し を も ち	1 金属と比べて、水はどのような温まり方をするのか予想する。（1）	内容のまとまりの見通しをもつ場面 既習の内容である金属の温まり方や生活経験を基に、水の温まり方を予想する場を設け、追究の見通しをもてるようにしましょう。 子どもの願い：水は金属と同じように熱したところから順に温まるのか調べたい。
追 究 し て	2 試験管に入れた水の上部と下部を熱したときの水の温まり方を関係付けて調べる。（1） 3 みそ粒の動き等に着目し、水の温まり方を調べる。（1）	自然の事物・現象を体感し、違いに気付く場面 加熱後、数分して、試験管の上部と下部に触れて水の温かさを確かめ、金属の温まり方と比べるよう促すことで、温まり方の違いに気付けるようにしましょう。 知識をつなげ、より科学的な概念を形成する場面 金属と水の温まり方を、図に表して、比べるよう促すことで、金属は順に温まるが、水は移動して全体が温まることを整理できるようにしましょう。
振 り 返 る	4 内容のまとまりを振り返り、学んだことを活用して説明したり、新たな疑問をまとめたりする。	学んだことを活用したり疑問をまとめたりする場面 「水は移動して全体が温まるから、火にかけたみそ汁も回っているのかも」等、身近な自然の事物・現象を説明したり、新たな疑問をまとめたりしましょう。

◆どのような見方・考え方を働かせて、課題を解決していくのか、大事なポイントを絞ってみましょう。この小単元の場合、みそ粒が動いているからだという関係性を捉えさせていきます。

◆既習の金属の温まり方と比べるなど、既習の内容と比較させることで、金属と水の温まり方の違いに目を向けて考察していくことができます。

次の内容へのつながり：「空気のあたたまり方」 空気の温まり方を調べる。（3）

・煙の動き等に着目して、それと温度の変化とを関係付けて、空気は移動して温まることを見いだす。

義初研 「初任研スタート研修」

平成 30 年 4 月 17 日（火）実施

286 名が一堂に会し、初任研がスタートしました。教育公務員に求められる資質及び使命、学級づくり・授業づくりの基礎・基本などについて研修しました。

【内容】

- 1 挨拶 長野県総合教育センター 西條 浩章 所長
- 2 講話 「長野県の教師として期待すること」
原山 隆一 教育長
- 3 講義 「教員としてのあり方」
(株)コミュニケーションズ・アイ
伊藤かおる 代表取締役
- 4 講義 「コンプライアンスとサービスの基本」
義務教育課 濱野 久 主幹指導主事
- 5 講義 研修体系と初任者研修 教職教育部 依田 学 専門主事
- 6 講義 「学級づくり授業づくりの基礎・基本Ⅰ」
教学指導課 義務教育指導係 賜 正俊 係長
- 7 分散会 「学級づくり授業づくりの基礎・基本Ⅰ」



「自ら機会を作りだし、機会によって
自らを変えることを大事にしてほしい」

原山隆一教育長

《受講者のふり返りから》

- ・身に付けてほしい力や姿は、まず教師自身が自ら実践すること。正解のない問いに対して、生徒と共に学び、考える教師になることが大切であると感じた。
- ・生徒を叱ってしまう原理が「こうあるべき」という教師の価値観にあるという講義をお聞きして、とても共感した。実際に叱るには、ルールだから叱るのではなく、どういう人になってほしいからという明確な理由をもって生徒に話していきたい。
- ・「子どもは教師が本気かどうか見抜く」「知ろうとすること抜きに子どもを愛することはできない」ということが響いた。

高初研 「教科指導基礎研修Ⅰ」

平成 30 年 4 月 24 日（火）実施

「生徒のもっているものの中にあるいいものを引き出していく」、「評価によって資質・能力を伸ばす、これからはそういう評価を目指さなければならない」という教育のあり方について理解を深めました。午後は、教科指導の基礎・基本を学ぶとともに、今ある課題について教科別にグループで話し合いました。

【内容】

- 1 講義 「授業と評価の一体化
～一枚ポートフォリオ評価法を例に～」
山梨大学 堀 哲夫 副学長
- 2 研究協議
「学習指導要領と教科指導の基本(授業のあり方)」
- 3 全体会 協議内容を教科グループごと発表

《受講者のふり返りから》

- ・評価によって資質・能力を育成するという考え方は、自分にとって新しい気付きだった。つい生徒は知識の無い状態だと考えてしまっていたが、知識・イメージがあり、それらが授業の中でどのように変化したかを可視化することで、授業改善や資質・能力の育成につながると感じた。
- ・指導主事の先生自身が楽しんで授業を行っている点やICTを取り入れている点、グループワークを積極的に取り入れている点など真似したい授業でした。自分の授業が導入と終わりの結びつきがなかったことに模擬授業をみて気付き、課題に感じた。
- ・「間違いは宝だ」という言葉はその通りだと感じた。自身の学校の生徒が間違いを極度に嫌がる部分があるため、間違えてもよい空気を作りたい。



教科別の話し合いの様子